

第2回安全・安心部会での確認ポイント

【確認いただきたい主なポイント】

◎全部会共通

下記について適切に記載されているか。

- ・第1回専門部会での意見への対応と計画への盛り込み
- ・想定される次世代技術（デジタル化など）の活用

◎安全・安心部会

下記について適切に記載されているか。

- ・誰も取り残さないための補完の方法が確保されているか。
- ・様々な地域活動を維持していくための地域人材の育成と活用、地域組織のあり方の検討
- ・市民がそれぞれの関心に合わせて地域の（福祉）活動に参加できる情報発信と収集の環境づくり
- ・性別や国籍等にとらわれず多様性を認め合う社会の形成
（地域福祉計画、障がい者基本計画、高齢者福祉計画・介護保険事業計画については、現在R3年度からの計画として策定作業を進めており、随時表記を追記、変更する予定）

◎その他

上記ポイント以外でも、次期総合計画に追加したり、修正したりするべき点（資料No.3）などがございましたら、何なりと意見用紙にご記入ください。

【参考：第1回専門部会における主な意見と対応（別紙の個票から主なものを抽出したもの）】

【全体】

1 共創

○委員からの主な意見

- ・共創の観点が入っているが、「施策の展開」でもその記載で完結している印象。そこからどう展開し、ステップしていくかがないと絵に描いた餅になってしまう。連携の具体的なイメージを持ち、次のステップをにらんで考えないといけない。
- ・市民の主体的な取り組みには共創の意識を広めることが不可欠。共創の推進も力を入れてきたいと思うが、そのためにも部局を超えた横断的な取り組みにする必要がある。
- ・学校と地域との連携を深め、共創を進めるためには、地域側の潜在的な資源（人材も含む）の掘り起こしが不可欠。特に、現役を引退した経験豊富な人たちをどう地域に引き込めるかが重要。

○計画への反映等

- ・めざすまちの姿 5 の施策②広域観光の推進や、めざすまちの姿 15 の施策②消防・救急・救助体制の充実など各施策に反映。

2 次世代技術の活用

○委員からの主な意見

- ・デジタル化、デジタル革命の中で、記載してある内容はまだまだ足りない印象。総論で視点が入っているが、まだまだブラッシュアップしていけば、行政サイドの手続き（行政のデジタル化）やUIJ ターンの観点などの施策にも入ると思う。
- ・デジタル化で人が不要になるという考えを言う人がいるが、そうではない。人のやるべきことに集中し、人がやらなくてもいい仕事を減らし、「ひとの力」を発揮させるということ。
- ・デジタル化は、様々な施策に関連してくると思っており、全ての施策とは言わないが、施策のベースにデジタル化という考えがないといけない。令和4年度からの計画であれば、ほとんどの施策にデジタル化は関連してくる。デジタル化に対応することで、施策をどのように推進し、効率化を図るのかを検討していく必要がある。

○計画への反映等

- ・めざすまちの姿 6 の施策①商業・サービス業の振興や、めざすまちの姿 17 の①市民に開かれた市政の推進、③簡素で効率的な行財政の推進など各施策に反映。

3 その他（全分野共通の意見）

○委員からの主な意見

- ・地方の価値が高まりつつある中で、独自性のある施策が必要。窓口で「人を待たせない」デジタル革命を他市に先んじて取り組むなど、高岡が変わったと思われることが必要では。
- ・施策の文言で、「図る」「推進する」「促進する」などの文末の表現で、「努めます」が続いているところがあった。部分的にあるのは仕方ないが、多用されると消極的な印象を受ける。

○計画への反映等

- ・文末の表現について各施策に反映。

【安全・安心】

12 誰もが生き生きと自立して暮らしている

○委員からの主な意見

- ・活動の担い手が減ってきている状況で、特定の方に負担が集中している現状を打破するのは簡単ではない。担い手を増やすためには、広く、薄く、ボランティア的な活動から参加してもらうことが必要ではないか。その中で、興味や関心を持った方に取り組みを深めてもらえばよいのでは。
- ・昔に比べ便利になったことで、地域で協力し合う必要がなくなってしまったように感じる。その中で共生意識の醸成をどのように図ることができるかが課題。
- ・若い人は決してボランティアに興味がないわけではなく、ボランティアについて知れば参加する人もいると思う。若い人はわからないことをネットで調べるので、ネットで情報の入手やボランティアしたことが可視化できると広がりが出てくるのでは。
- ・各団体でボランティアを募集するだけでなく、ボランティア育成のための講習会を実施しては。そうした講習会があるという情報発信をどう行っていくかが課題。
- ・実際ボランティアをすると、やってよかったと思う人が結構いるのでは。共創の意識を醸成していくことで、地域人材の育成にもつながる。
- ・今はネットでつながれる社会だが、高齢者は敬遠することも多い。高齢者だからできないという考えを払しょくしないといけない。

○計画への反映等

- ・〈ボランティア・NPO 活動の充実〉に表記があるとおおり、市民がそれぞれの関心に合わせて地域の福祉活動に参加できるよう、情報の発信と収集がしやすい環境づくりを推進し、子どもから高齢者まで活動機会の充実を図る。
- ・障がい者雇用、就労の促進のため ICT を活用した在宅支援を追記。(全体)
- ・介護サービス提供体制の確保のため、県と連携した介護ロボット、ICT 導入支援等を、健康寿命延伸を図るため、SNS 等を活用した介護予防策の推進を追記。(全体)

○その他

- ・策定中の地域福祉計画、障がい者基本計画、高齢者福祉計画・介護保険事業計画（いずれも今年度中）に合わせて随時表記を修正。
- ・製造業・農業など多分野に渡る就労形態による障がい者の経済的自立の促進を追記。
- ・障がいや障がいのある人に対する理解促進のため、福祉教育や啓発活動の推進を追記。

13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる

○委員からの主な意見 なし

○その他

- ・文言のみ修正。

14 地域の人々の手で環境が守られている

○委員からの主な意見

- ・地球温暖化や海洋プラスチックゴミなどが課題だが、自分には関係ないという人が多い。

今すぐ行動してもらうためには、わかりやすいメッセージや打ち出しで、人の心をとらえる必要がある。

- ・富山県は水を出しっぱなしにしても豊富なため、あることが当たり前と思っている。地球全体としてみた場合、使える水の量の割合は非常に少ないので、水に恵まれていることを認識して、大切にすること意識が必要。

○計画への反映等

- ・地球温暖化の進行に伴う気候変動、海洋プラスチックごみによる海洋汚染を課題に追記。
- ・地球規模の環境問題に対して、市民自らが主体的に考え取り組むことを追記。

15 安全で快適な生活を送っている

○委員からの主な意見

- ・高岡市に外国人が増えてきたことにより、課題も出てきた。外国人は日本が災害大国であることを知らないことが多いため、自国が災害のないところだと防災意識が薄く、対処の仕方を知らない人が多い。
- ・防災士がいても知られていない。女性防災士も増えているが、活動する場がない。市民から提案しているが、新しい取り組みが見えない。
- ・防災士の役割を市民に知ってもらうために、意見交換の場を作る。特に、自治会に女性防災士について、周知しなければならない。

○計画への反映等

- ・〈災害に強いまちづくりの推進〉に表記があるとおおり、地域に根差した防災士の養成や要配慮者を地域ぐるみで助け合う仕組みづくりを進める中で、防災士の周知や活躍の場の拡大を図るとともに、外国籍市民への防災について啓発し、防災訓練への参加を呼び掛ける。
- ・ドローン等で構成する現場映像伝送装置をより効果的に活用することや、新たな119番システム、活動支援ロボット等の次世代技術の活用について研究を進めることを追記。
(全体)
- ・冬の道路交通の確保のため、防災情報の提供を追記。(全体)
- ・将来にわたり持続可能な上下水道の事業経営のため、IoTの活用を追記。(全体)

○その他

- ・「ハザードマップ」による災害リスクの把握や「マイ・タイムライン」を活用した防災行動計画の確認について追記。
- ・老朽化が進行する社会基盤を適切に維持管理するため、既存ストックを最大限生かしながら、道路ネットワークの安全性・信頼性の向上を追記。
- ・交通事故が起こりにくい道路環境づくりを推進するため、「自転車が移動しやすい」交通安全施設の整備推進を追記。

16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている

○委員からの主な意見

- ・自治会や地域への役割などが記載しており、大変有難い。今後は、小規模多機能自治に取り組んでいくことも良いと感じている。

- ・行政は、何年かすると異動により担当者が変わるので、市が地域の実情を把握できておらず、地域とのつながりが薄いため、地域住民の参加を具体化することが難しい。縦割りのものを横につなぐのは、現場（地域）しかない。
- ・高岡は海も山も近く、渋滞や待ち時間がなく、食べ物も美味しく、とても住みやすい。永住する外国人に高岡を選んでもらえるように、地域で住みよさをアピールすることが重要。今は、ベトナム、インドネシアなどの若い人が増えてきており、この人たちが永住するとなった時に高岡を選んでもらえるようにすることが大事。
- ・日本国籍市民ベースで記載されており、外国人市民について配慮が十分ではないように感じる。
- ・日本国籍市民に対してできることを考える。（交流だけで充分か）
- ・性的少数派の方々、障がいのあるの方々、外国人などマイノリティに対して、まだまだ配慮がたりない。男女平等センターでそれぞれを理解し合えるような講座や意見交換の場を作ること。

○計画への反映等

- ・〈地域における共創の手法の活用〉、〈住民が主体となる地域づくり〉に表記があるとお
り、様々な地域活動を維持していくため、地域人材の育成と活用に取り組みや、地域の
拠点性を高めるよう地域が主体となる施設運営への移行を支援する。
- ・〈多文化共生のまちづくり〉に表記があるとおり、案内標識やホームページ、SNS、パン
フレット等による多言語情報提供や外国人相談員による生活相談体制の充実を図る。
- ・地域の活性化を通じて持続可能な地域づくりを推進するため、地域の日本人と外国人が
連携し共生を図ることが重要であることを追記し、本市の外国人を外国籍市民に修正。
- ・地域の日本人と外国人のお互いが教え合い、協力し合うことを追記。
- ・性別等にとらわれず多様性を認め合うことへの理解の浸透を追記。
- ・子ども、高齢者、障がい者、外国人、性的指向・性自認をはじめとする各種人権課題に
取り組むことを追記。

17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる

○委員からの主な意見 なし

○計画への反映

- ・デジタル技術の活用や電子申請の周知、行政のデジタル化を追記。（全体）

○その他

- ・人口減少を抑制し、人口減少下でも対応可能な地域社会をつくることが求められている
ことを課題として追記。
- ・人口減少・少子高齢化に対応した戦略的な都市経営について、移住・定住策を強化し、
若者の働く・結婚・子育ての希望を実現できる地域社会の実現を目指すため、本市の地
の利や強みを活かし、地域資源を最大限活用すること、時代の潮流を意識し、次代を担
うひとづくりに注力し、持続可能なまちづくりを目指す視点を追記